

上牟田口祇園獅子舞【かみむたぐちぎおんししまい】



開催場所

上牟田口三嶋神社を出発し、
上牟田口全域を回る

開催日

7月13日
7月第2日曜

【芸能の概要】

上牟田口では、明治中期頃より、毎年7月14日に神社の行事として、悪魔祓い・無病息災を祈願して、獅子舞を行う。獅子は、赤獅子・黒獅子の2頭一組に各2名の氏子が入り1人は露祓いをし、民家1軒1軒を回る。氏子は、身褌をし、御祓いを受け魂を入れる。戦時中一時中断、戦後復活したが、昭和40年に再休止。昭和56年に復活、現在に至る。

【芸能の特徴】

三嶋神社は、事代主命を祀っている。1873(明治6)年村社に定められたが、昭和21年に社格は廃止された。獅子舞は、明治中頃より毎年7月14日~15日に三嶋神社の祇園祭祭事として舞っていたといわれる。獅子舞は大木町では、上牟田口と絵下古賀に残っている。第二次大戦中は中断したが、昭和35年頃には7月14日の祇園祭の際、15日に獅子舞(戸別獅子祓い)を行っていた。昭和40年に途絶え、中断は15年程に及んだ。青年層より強い復活が希望され、世話人会が発足し、宮総代の協力を得て、昭和56年に復活した。その頃は14日を定日として実施していたが、7月の第2日曜日と変化していった。現在は村の活性化も考慮して、地区内に住む人は全て氏子であり、その氏子が獅子を舞わすという考えで進めている。舞には、「芙蓉の舞」があるが、三嶋神社以外では、消防の出初式でしか披露していない。現在、上牟田口獅子舞保存会が中心になって継承に力を入れている。

【使用する祭具・道具など】

獅子頭は赤師獅子(雄)、黒獅子(雌)の1対で公民館(兼社務所)に保管。たてがみにへらの木の皮で作った紐を使う。

・アクセス

西鉄大牟田線八丁牟田駅より徒歩20分

・周辺の観光

猪口萬右衛門車碑、ふるさと美術館、村の美術館、堀(クリーク)

ふるさと大莞(おおい)祭り(8月)、
おおきホリオコシアード(8・9月不定期、12月堀干し)、
おおきまつり(11月、隔年次回2004年)

・近くの特産品

い草製品、えのき茸、博多ぶなしめじ、ひし、
グリーンアスパラ、いちご、家具、久留米餅、ひし人形。

